

# 平成 25 年度研究成果情報

課題名 : DNA マーカーを用いたガザミ種苗放流効果の検討

## [背景・ねらい]

ガザミは有明海の重要魚種の一つであるが、平成 15 年以降資源が低位状態にある。このため、有明沿岸四県では、ガザミ資源の回復に向け、新たに開発された DNA 親子判定技術を用いた放流効果調査に取り組んでおり、漁獲混入結果を基に、ガザミ種苗放流の有効性について検討している。

## [成果]

- (1) 平成 25 年度は、当センターが C3 サイズ(全甲幅長 10 mm)の種苗 93 万尾、また、佐賀県有明海漁協が C1 サイズ(全甲幅長 5 mm)の種苗 105 万尾をそれぞれ放流した(表 1)。放流種苗の漁獲物への混入状況を調査した結果、佐賀県地先で漁獲された漁獲物における放流種苗の混入率は 2.3%であった(図 1)。
- (2) モニタリング調査の結果、佐賀県海域における平成 25 年度の推定漁獲量は 66.7トン(前年度比 184%)であり、好調であった。
- (3) これまでの調査により、標識装着が難しかったガザミ種苗の追跡調査が可能となり、放流した種苗が一定の割合で漁獲混入し、漁獲量の底上げに効果があることが示された。

表 1 佐賀県のガザミのサイズ別放流尾数 (単位 : 万尾)

	C3 サイズ	C1 サイズ
平成 21 年	24	147
平成 22 年	24	155
平成 23 年	80	302
平成 24 年	94	175
平成 25 年	93	105

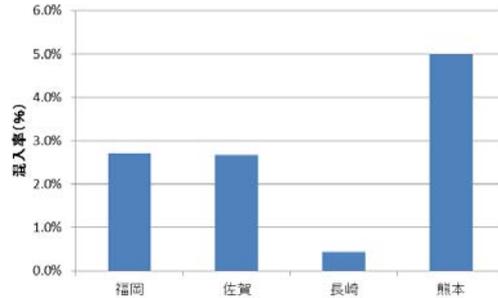


図 1 有明海沿岸四県別の放流種苗の混入率

## [課題・問題点]

- ・ 今回、放流種苗が一定の割合で漁獲混入することが確認されたが、ガザミは有明海を広域移動する種であり、放流効果をより正確に把握するためには、有明海沿岸四県で協調した調査が必要である。

## [今後の対応]

- ・ 有明沿岸四県での共同効果調査の継続 → 適放流条件(放流サイズ、時期、場所等)の整理 → 共同放流へステップアップを図る。

## [その他]

研究期間:平成 21~25 年

研究担当者:資源研究担当 伊藤 毅史